

学校だより 特別号

令和7(2025)年
11月28日(金)発行



札幌市立屯田中央中学校

TEL. 011-771-5981

<https://www.tondenchuo-j.sapporo-c.ed.jp/>

「文部科学省 全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、日頃より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。さて、「全国学力・学習状況調査」から、本校生徒の学習状況や調査結果から考えられる課題、改善の方針等につきまして、全学年の保護者の皆様にお知らせいたします。ぜひご覧いただき、学習状況のとらえとしてお役立ていただきますようお願いいたします。

なお、本校では学校間の序列化や過度な競争を招かぬよう配慮する意味から、本市の他の学校と同様に平均正答率などの数値結果の公表はいたしませんのでご了承下さい。

また、本調査に関するお問い合わせにつきましては、本校教頭までご連絡下さるようお願いいたします。
(札幌市立屯田中央中学校 電話 771-5981)

1. 教科に関する調査

	本校の概要(内容・領域)	今回の調査における課題	改善の方向
中学校・国語	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 言葉の特徴や使い方に関する事項<ul style="list-style-type: none">・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。<input type="checkbox"/> 「話すこと・聞くこと」<ul style="list-style-type: none">・全国平均とほぼ同程度である。<input type="checkbox"/> 「書くこと」<ul style="list-style-type: none">・全国平均を下回っている。<input type="checkbox"/> 「読むこと」<ul style="list-style-type: none">・全国平均を下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・事象や行為を表す語句について理解すること。・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。・表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	<ul style="list-style-type: none">・新しく出会った言葉について調べたことを記録したり、その語句を話や文章の中で使ったりする活動の充実。・聞き手の反応を踏まえて話の受け止め方や理解の状況を捉え、相手にわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す活動の充実。・読み手を明確に意識した表現・語彙を書いているか、誤字・脱字がなく、表記が整って読みやすいものになっているかを確かめながら自分の書いた文章を見直す活動の充実。・目的が明確で、文章全体が一貫しているか、材料が効果的に選ばれ、主張を的確に支えているかを判断しながら文章を書く活動の充実。・表現の効果を的確に説明したり、文中の表現を適切に引用し、理由を明確に示したりしながら、自分の考えを書いたり発表したりする活動の充実。
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 「数と式」<ul style="list-style-type: none">・全国平均を下回っている。<input type="checkbox"/> 「図形」<ul style="list-style-type: none">・全国平均を下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・ことがらが常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげること。・統合的・発展的に考え方、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること。・証明をふり返り、証明されたことからを基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすこと。	<ul style="list-style-type: none">・命題やことがらが常に成り立つとは限らないことを説明する方法として、「反例をあげる」などの様々な方法を使う活動を行う。・証明の手順を覚えるだけでなく、証明の仮定(わかっていること)と結論(示したいこと)の関係を明確にしたり、図形の性質を体系的に理解して、様々な場面で活用できるようにする指導の工夫を行う。

本校の概要(内容・領域)		今回の調査における課題	改善の方向
中学校・数学	<input type="checkbox"/> 「関数」 ・全国平均を下回っている。 <input type="checkbox"/> 「データの活用」 ・全国平均を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができること。 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明すること。 相対度数の意味を理解していること。 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて証明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数について、変化の割合を求める問題だけでなく、変化の割合を使って、他の数量を求める問題まで、幅広く授業中に取り扱う。 日常生活や社会の事象における数量関係を見出し、表や式、グラフに表す活動を充実させる。 計算機や電子端末を活用するだけではなく、相対度数を求めたり、活用したりする活動を充実させる。 事象を表やグラフで表す活動を充実させ、それぞれの表し方の特性や、代表値の特徴などを証明で使えるように関連づけて理解させる。
中学校理科		<ul style="list-style-type: none"> 身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで抵抗に関する知識が概念として身についていること。 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目したふり返りを表現できること。 スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身についていること。 気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身についていること。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気回路に関する知識について、これまで学習した知識や観察実験を活用し、概念的な理解を深める学習活動の充実をすすめる。 授業の終わりに探求の過程をふり返り、新たな疑問を記録する学習場面を設定し、生徒が主体的に探究する活動を促す。 スケッチでは、生物の特徴や大きさ等を表現し、細部まで表現できるように細い線で影をつけずにはっきりと書くよう工夫する。 様々な事象の中から気圧が関係するものを選択したり、気圧を利用している身近な事象を説明したりする学習場面の充実をすすめる。

※理科については、一人一台端末を用いて調査を実施しており、生徒ごとに出題内容が異なるため、領域ごとの本校の概要については記載しておりません。

2. 「生徒質問」への回答から

○肯定的な回答の割合が多かった設問

- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 人が困っているときには、進んで助けていますか。
- いじめはどんな理由があつてもいけないことだと思いますか。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

○肯定的な回答が比較的少なかった設問

- 将来の夢や目標をもっていますか。
- 分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。

行事等で活動することを通して生徒同士が仲間作りを行い、「人の役に立つ人間になりたい」、「人が困っているときには進んで助けたい」といった、良好な人間関係を築いていこうとしている点に良い面が見られます。一方、主体的に学習に参加し、学習を自己調整することで、学習内容を定着させることに課題が残ります。

次年度も、多様な体験を通して、良好な人間関係や豊かな心を育てる取組を継続していきます。また、学習のベースとなる学力を身に付けられるよう、生徒自身が主体的に学習し、目標をもって学習を進められるよう支援していきます。